

共有できるという点でネットは便利なのである。

私がついたターで短歌を始めたばかりの頃は「#thank」のハッシュタグに非常にお世話になった。これを検索すれば、全歌集が出るような歌人から短歌を始め仲間もない人の作品までいくらでも読むことができる。そして自分と同じように口語で短歌を詠む人が思っていたよりもたくさんいることを知った。そして、地球のどこにいても（ネット設備があれば）使える事もネットのメリットであるが、私自身も友人に住所を聞いてみたら一人は関西在住もう一人はシンガポール在住で驚いた事もある。東京在住の私はネットがなければ一生二人に出会えなかつただろう。短歌とネットが繋いでくれた縁である。

③ 発信する

次に述べるネット活用法は発信である。短歌をブログに載せる、SNSに投稿するということに加え、自分の活動や所属する結社の情報、歌会や批評会などイベントの告知も数多く発信されている。具体的には東京大阪札幌など各都市で開催されている文学フリマや、岐阜県にある古今伝授の里フィールドミュージアムで行われる歌合の

イベント「短歌道場『古今伝授の里』」等はイベントの情報積極的にネットで発信し参加者を増やした。また、ネット上で連日歌会を行う短歌投稿サイト「うたの日」や、ネットを利用して登録された印刷物を全国各地のコンビニで出力するネットプリント（セブンイレブン）、ネットワークプリント（ローソンその他）等も盛んで、ネットを活用した短歌との付き合い方は多様化している。電子書籍Edooを利用して結社誌を発行する新進気鋭の短歌結社「なんたる星」や、特集号の電子書籍化を開始した短歌誌「かばん」など、紙媒体ではない結社誌も発行されている。今後はどういった媒体が読者のニーズに合っているかを踏まえて各結社毎に選択されていくだろう。

ネットが以前より身近なものとなった今、ネットで短歌に出会う人は増えている。その上で短歌結社というものの存在を知り、どんな場所かと興味を持つ人も増えてくるだろう。しかし、「心の花」はネットでの情報発信がまだまだ少ない。短歌結社の中では「未来」が比較的ネットを用いた発信が多く、外部参加や見学が可能な歌会の告知を選者自らが行的参加を迷っている様子など投稿があれば積極的に声掛けを行うなど

している。今後を担う若い世代の獲得という事を考えれば、「心の花」においてもネット環境の改善は必要だろうと思われる。

ツイッターには「心の花」公式アカウンツがあるがフォローフォロワーともに少なく発信の規模が小さい。情報を得るためではなく発信するためには、短歌を詠む個人のアカウンツなどをもっと積極的にフォローしてフォローワーを増やすべきだろう。また、「心の花」のホームページについても課題がある。今は一部の会員のボランティアにより管理されているが、字の大きさや見やすさなどまだ改善できる点があるように思う。来年には百二十周年を迎えるように思う。来年には百二十周年を迎えるように思う。発信すべき情報量が今後増えるであろうことを考えると、リニューアルを外部委託するなどサイトのグレイドアップを図ってもよいのではないだろうか。また、ネットにおける「心の花」の広告塔となる人が少ない事も課題である。歌会の様子や生の声など外に伝わりづらい部分をこまめに発信することで、「心の花」に興味のある人や短歌初学者への情報提供が可能となり、「心の花」や短歌結社に対する過剰な不安の軽減や、時には誤解の払拭にも繋がるのではないかと考えている。